

# 令和7年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立誠和福祉高等学校)

目指す学校像	福祉やボランティア等の人との関わりを大切にする教育活動を通して、人間性を磨き、地域や社会を支える力と心をもった生徒を育成する。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の「考える力」を育て、確かな学力を身につけさせる。</li> <li>2 思いやりの心と、自主・自律の態度を養う。</li> <li>3 高い志を持ち、社会に貢献できる人財を育成する。</li> <li>4 広報活動を充実させ、地域社会において福祉教育への理解を広める。</li> </ol>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者 名  
 生徒 名  
 事務局(教職員) 名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(1月31日現在)		
評価	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○生徒の主体的な学び促進に向け、観点別評価のノウハウを確立するとともに1人1台端末を利用してICTを活用した授業を充実させる必要がある。	○生徒の学習意欲の向上及び基礎学力の定着	<ol style="list-style-type: none"> <li>①研修会、授業見学、授業改善に向けたアンケートの実施</li> <li>②各系列とコースにおける資格取得・検定・実習・成果発表等の充実</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ICTの活用に向けて多くの教員が取り組んだか。</li> <li>②アンケートで「主体的に学習に取り組むことができた」と回答する生徒の割合が80%を超えたか、「授業が理解できる」と回答する生徒の割合が80%を超えたか、「ICT機器の活用により学習の理解の助けとなった」と回答する生徒の割合が70%を超えたか。</li> <li>③各系列とコースにおいて、資格取得および検定合格を含めた進路指導計画が実施できたか。</li> </ol>			
2	○福祉専門高校における心の教育を一層定着させるために、身だしなみやマナー等の指導基準を明確にするとともに、多様な背景を持つ生徒を支援するために校内の教育相談体制を改善する必要がある。	○福祉専門高校の特徴を生かした、心の教育および自主・自律を促す指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>①人との関わりを大切に、思いやりの心を育てる人権教育、特別活動の充実</li> <li>②基本的生活習慣の確立に向けた生徒指導の実施</li> <li>③特別支援教育や教育相談の充実</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①人権意識を高め、思いやりの心を育てる指導を日常的に行ったか。</li> <li>②アンケートで「身だしなみ・登校マナー等のルールが守れた」と回答する生徒の割合が90%を超えたか。</li> <li>③特別支援教育推進委員会や教育相談委員会を定期的に開催し、課題を抱えた生徒の情報を教職員で共有し、SCやSSWおよび関係機関と連携して効果的に活用できたか。</li> </ol>			
3	○キャリア教育に向けた進路指導や支援にハンディ進路指導室などICTを活用する。生徒の進路希望実現を目指して両学科における進路指導を体系化し、資格取得や検定合格実績を充実させることが課題である。	○生徒の意識向上、資格取得・検定等の受験促進をさせる進路指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各系列とコースにおける系統的な進路指導の充実</li> <li>②資格取得、各種検定試験の受験等を通じた進路意識向上</li> <li>③進路指導部・学年・教科・学科が連携した進路指導の実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①アンケートで「進路意識が高まった」と回答した1・2年生の割合が、前年度を維持できたか。</li> <li>②アンケートで資格取得や検定受験に「取り組んだ」「まあまあ取り組んだ」と回答する生徒の割合が80%を超えたか。</li> <li>③就職内定率と進学率が共に前年度を維持できたか。</li> </ol>			
4	○本校の教育活動を広く県民に紹介できるよう組織的に広報活動を行っている。中学生や保護者および中学校教員が本校の特色、魅力に触れられるようにHPや学校Instagramの充実など改善が必要である。	○本校の特色・魅力を発信する体制の構築	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ボランティア活動等地域との連携を通じた本校の取組発信</li> <li>②学校説明会や進学フェア参加等の生徒募集活動の充実</li> <li>③進路指導・キャリア教育研究協議会を活用した、中学校への本校魅力の発信</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①広報活動を充実させ、本校の取組をより多く発信できたか。</li> <li>②組織的に生徒募集活動を行い、中学生やその保護者の本校理解が進んだか。</li> <li>③HPや学校Instagramを充実させて、中学校等に対して、本校の魅力をPRできたか。</li> </ol>			

実施日 令和7年2月5日  
 学校関係者からの意見・要望・評価等